

2018年9月20日  
2017/2018 留学生  
大阪大学 外国語学部 アラビア語専攻  
宮ノ腰 陽菜

## 「クウェートに留学する」ということ

私は 2017/18 年度留学生のなかで唯一、大学でアラビア語を専門に学んでいました。また、大阪大学のアラビア語専攻の友人たちは、私と同じ時期にそれぞれエジプト、ヨルダン、オマーン、チュニジアに半年から一年弱の留学に旅立っており、彼らからそれぞれの国の状況、留学の様子を聞いていたため、「クウェートで留学する」ということがどういうことなのか、客観的に見ることができました。「クウェートで留学する」とはどういうことなのか、私なりの意見ですが、アラブ圏への留学を検討している方々に参考になればと思います。

まず他のアラブ諸国と比べた時、クウェートを選ぶ一番の利点は「安全性」だと思います。このクウェート政府奨学金では、男女それぞれ大学寮に入ることが義務づけられています。特に女子寮は 21:30 の門限(ラマダーン中は 23:00)があるため、余計に窮屈に感じてしまうかもしれませんが、これは同時に大学、ひいては政府に保護されているということです。それに加えて日本大使館、日本人会も何かあった時にはサポートしてくれるため、比較的問題への対処がしやすいのではないかと思います。

また、クウェートは経済的に豊かな国であるためか、痴漢などの性犯罪は留学中見受けられませんでした。もちろん門限の関係もありますが、他のアラブ諸国に留学した友人たちは大なり小なり痴漢を経験しているようでした。これは女性に限ったことではなく、男の友人からもそういった話を聞きました。

それから、VISA 等の滞在に必要な書類手続きも寮が指導してくれるため、手続きは遅いですが安心して滞在することができます。

次に、文化面において比較していきたいと思います。このクウェート大学ランゲージセンターのプログラムでは、フスハー(正則アラビア語、書き言葉)のみを学び、アーンミーヤ(方言、話し言葉)は扱いません。そのためクウェートに留学したからといってクウェート方言あるいは湾岸方言が身につくわけではなく、身につけようと思ったら独学で学ぶしかありません。また大学寮は外国人寮であるため、クウェート人はおらず、アラブ人も女子寮にはオマーン人が数名いたくらいでした。一部の友人とはアラビア語で話していましたが、おおよその友人とは英語で話していました。このような環境のため、ホームステイのように生

活を共にしながらクウェート、アラブの文化や習慣を知るということを求める人や、イマージョンを求める人は他の国へ留学することをおすすめします。

そういった反面、世界中の学生たちとともに学べるのはクウェートの魅力だと思います。私が認知する限り、2017/2018年度は28の国から留学生が集まっており、なかにはカザフスタンやアフガニスタン、ウクライナ、ジョージアといった普段日本で生活していたらあまり会えないような国からも学生が来ていました。彼らを通してその国の文化や国際関係を知ることができたのは貴重な財産であり、クウェートだからこそ得られた経験だと思います。たとえば旧ソ連の支配下にあった国々の学生たちはロシア語を共通語にして話していることや、中国と台湾の微妙な関係など、実際に見て初めて実感することがたくさんありました。もちろん他のアラブ諸国にも様々な国籍の学生が集まりますが、ここまで多種多様な学生たちが集まるのはクウェートぐらいではないかと思います。

他のアラブ諸国に留学した友人たちから話を聞いてみると、クウェートでの留学は他とは一味違っているように思えます。この体験記がアラブ諸国への留学を考えている方々の参考になればと思います。

最後になりますが、在クウェート日本大使館の皆さま、クウェート日本人会の皆さま、本当にお世話になりました。この場をかりて感謝申し上げます。